

trash

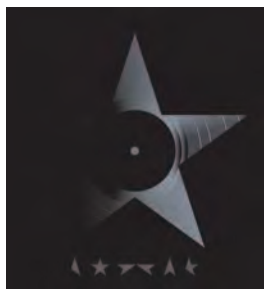
2015 Winter

Blackstar



新盤 BLACK STAR 2016年1月8日発売

VINYL
CLEARVINYL
CD
DIGITAL (itunes)



VINYL CLEARVINYL



CD(アルバムジャケット)



付録ブックレット

リングラフ (3種)付きの CLEARVINYL が公式 Store で予約販売された。
5000 部の限定で売り切れ表示されている。(2015 年 12 月下旬段階)

リングラフは

連鎖陽子 proton2chain 方程式 Equation(連鎖陽子の方程式) Graphic (メッシュ波形) の3種類
宣伝の為にムービーも配信されている。【アルバム予告】【VINYL 予告】等。

宣伝ムービーでは目のアイコンが半眼になるアニメーションが使われている。

10分のミニムービーのカウントダウンにもインタラクティブに変容するメッシュ波形が使われている。
また、専用サイトが公開され、散りばめられた星にカーソルを当てると様々な関連サイトやグラフィック
等が提示される。

Blackstar 2016年1月8日発表予定

david bowie公式ウェブサイトは、2015 年11月19日に カウントダウン付きでサイトトップをリニューアル
表題作「Blackstar」の10分のミニムービーが発表された。

また、オフブロードウェイで上演中の「LAZARUS」に提供された「Lazarus」のオーディオが発表され、既に発表済みの
「'Tis a Pity She Was a Whore」と「Sue (Or In a Season of Crime) 」を入れ、既にアルバム7曲中4曲が発表済みと
いう状態である。(この2曲は新アレンジで収録)

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------|
| 1. Blackstar | 1. ★ |
| 2. 'Tis a Pity She Was a Whore | 2. ティズ・ア・ピティ・シー・ワズ・ア・ホア |
| 3. Lazarus | 3. ラザルス |
| 4. Sue (Or In a Season of Crime) | 4. スー(オア・イン・ア・シーズン・オブ・クライム) |
| 5. Girl Loves Me | 5. ガール・ラヴズ・ミー |
| 6. Dollar Days | 6. ダラー・デイズ |
| 7. I Can't Give Everything Away | 7. アイ・キャント・ギヴ・エヴリシング・アウェイ |



宣伝用 YouTube 映像 Blackstar の目が閉じて半眼になる。

BLACKSTAR(大意)

オーメンのヴィラ※で
(※villa ormen トルコのギジェクに同名のリゾートがある)
隠者の灯明が佇む
すべての中心に

おまえの目
執り行われるその日
女達だけが跪きそしてほほえむ
AH AH AH AH
すべての中心に
すべての中心に
おまえの目
おまえの目
AH AH AH

オーメンのヴィラで
隠者の灯明が佇む
すべての中心に
おまえの目
AH
OO

彼が死んだ日に何か起きたのだ
精霊が1メートル上昇して身を退いた
誰かが彼に成り代わり勇敢にも声を上げた

私は黒い星だ
私こそ瀝青い星
幾度 天使は墜ちたのか
どれだけの人々が
高邁な言を嘘にすり替えるのか?

彼は聖地をふみにじり
群衆の中に大声で叫んだ
私は黒い星だ
私こそ瀝青い星だ
私は悪党ではない
私は何故なのか答えることは出来ない
私はブラックスターだ
私は私自身を伴って行く
私は映画スターではない
おまえを家に連れてゆく

私はブラックスターだ
おまえの旅券と靴を取りあげる
私はポップスターではない
そして、おまえの鎮静剤 BOO

私はブラックスター
おまえは線香花火
私はマンガの(奇跡の)スターではない
私は偉大な私
私はブラックスター
私は上向きで、金で以って
獲物を手に入れた

私は正義を探りだし

広々とした 寛大な心の痛み
私は私の白日夢に驚※を
(※神聖ローマや米国の徽章)
この目にダイヤモンドが欲しい

I'M A BLACKSTAR
I'M A BLACKSTAR
彼が死んだ日に何か起きたのだ
精霊が1メートル上昇して退いた
誰かが彼に成り代わり勇敢にも声を上げた

私は黒い星だ
星の中の星
私こそ瀝青い星
私は何故なのか答えることは出来ない
私は悪党ではない

けれどどんなかをあなたに言える
私は見せかけのスターではない
私達は ひっくり返って生まれて来た
私は星の中の星
あべこべに生まれてきた
私は白い星ではない
私は黒い星
私は悪党ではない
I'M A BLACKSTAR
I'M A BLACKSTAR
私はボルノスターではない
私は彷徨うスターではない
私は黒い星だ
私こそ瀝青い星

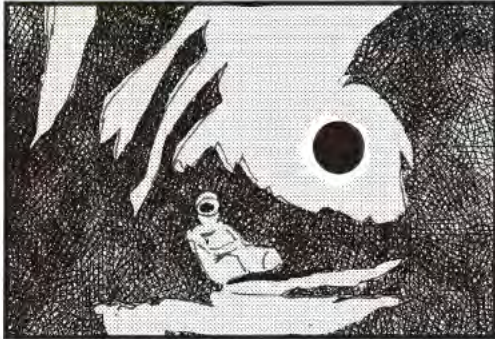
オーメンのヴィラで
無双の灯明が佇む
すべての中心に
おまえの目
執り行われるその日
女達だけが跪きそしてほほえむ
AH AH AH AH
すべての中心に
おまえの目
おまえの目
AH AH AH



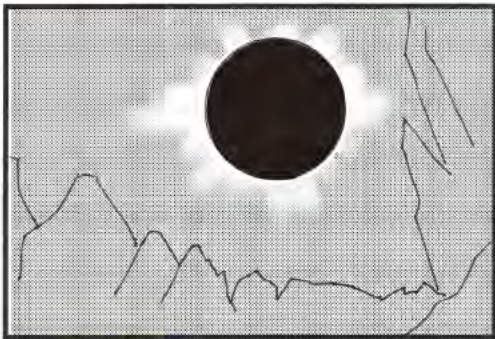
BLACK STAR(大意) ムービーについて

異界・日蝕の様な太陽・Astronaut・鱗鱗・ゴルゴダの案山子・尾の在る女・クトゥルフの神(?)
のような異形・灯明と乾いた異界の文明(街)…暗喩とシンボルに満ちたこの陰鬱なムービーは、
黒衣を纏う瘦身の BOWIE を堪能することも出来る。

オーメンのヴィラで…



……すべての中心に



……すべての中心に



地球に落ちて来た男より
2001年宇宙の旅や
MOONを連想させます



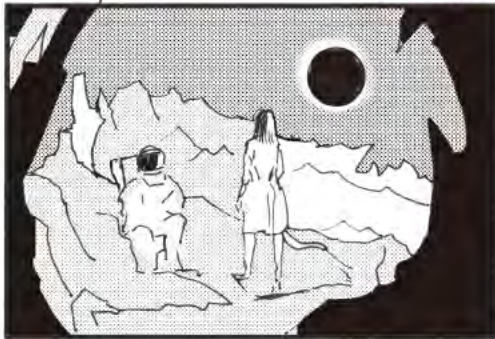
アルカイックスマイルの異星の女は
あまりジェンダーを感じさせない

執り行われるその日

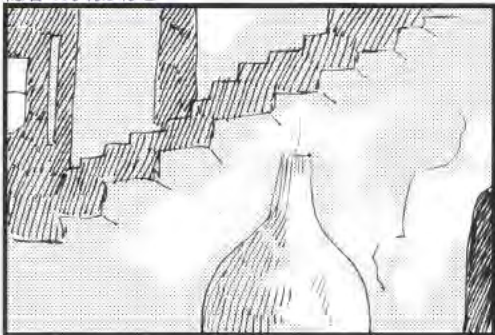


ピラミッド? 三角形の廃屋のような場所で歌う Bowie

……すべての中心に

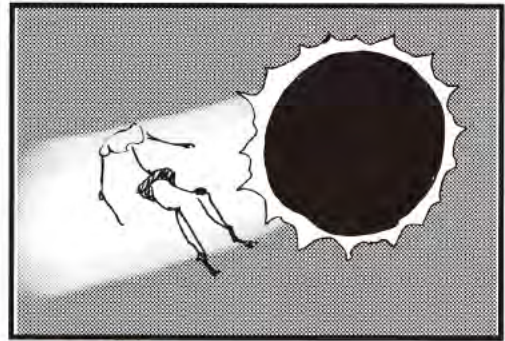
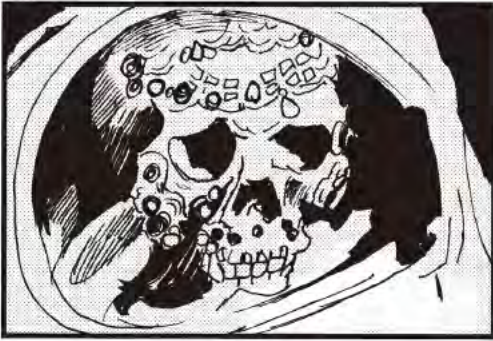


隠者の灯明が佇む

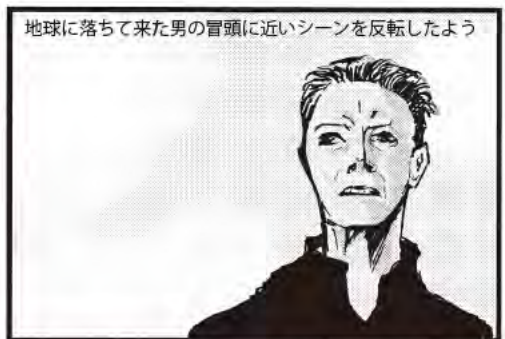
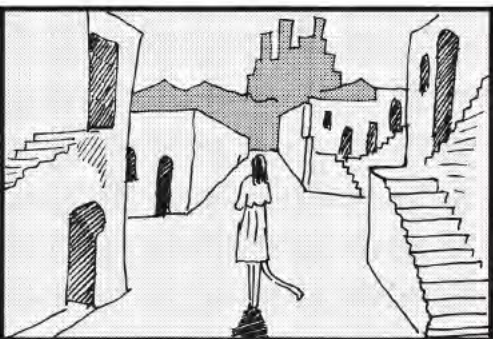
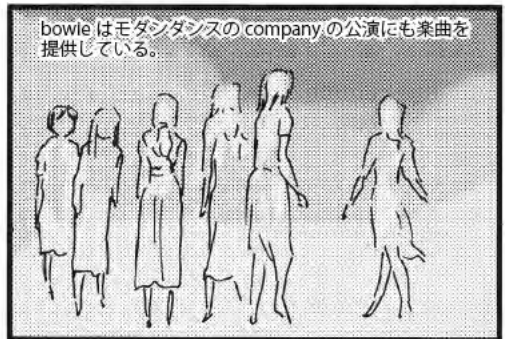
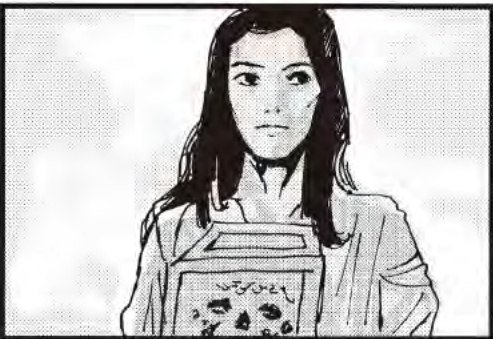
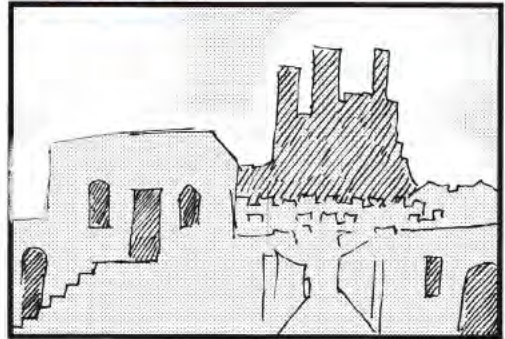


異星で遭難した(?) Astronautの宇宙服…空には闇に輝く太陽(?) 歌手は三角の廃墟の
ような部屋で歌う…異星の女(尾が在る)が宇宙服に近づきヘルメットを外す
階段のある街…建物の中…巨大な蠍の灯明が据えられている。

※イタリアのカタコンベでは貴族等の遺骨が宝飾品で装飾され眠っているが…彼らは聖列されない…



……すべての中心に



女が開けた宇宙服の頭部には宝飾品で装飾された髑髏が…三角の部屋では白人・黒人・女の舞踏手が痙攣的な舞踏をしている。女はガラス器に髑髏を入れて異界の街を歩む…コロナを纏う黒い太陽には首のない髑髏が引き寄せられてゆく…女達が円陣を囲み螺旋のように歩く…そして青い空の書き割りの前には歌手が…（構図を反転するとまるで「地球に落ちて来た男」のよう）



そして、おまえの鎮静剤 BOO



三角の部屋に丸窓のような灯りが施され、主要な歌がここで歌われる…この三角の部屋は「地球に落ちて来た男」Tommy が乗って来た列車のような乗り物を彷彿させる。穂のある叢にはゴルゴダ様に三人の男が十字架に掛けられている。シャツから麦わらが覗いている…案山子 (SCARECROW) である。案山子 (十字) はキリスト教以前の犠牲にして聖王の象徴でもある。



I' M A BLACKSTAR



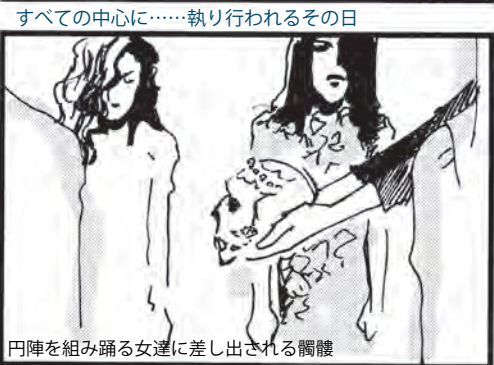
燭台は天使に準えられる存在



女導師が觸髅を持って…



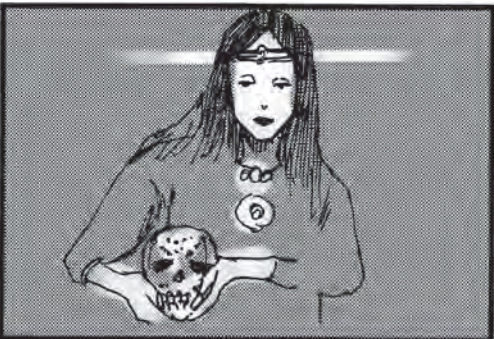
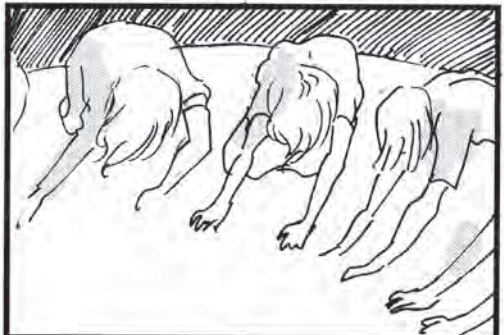
異境的な異形 クトゥルフ的な或いは羽毛の何か…



すべての中心に……執り行われるその日

円陣を組み踊る女達に差し出される觸髅

女達だけが跪きそしてほほえむ



歌い手が掲げるのは黒い星の聖書のような本。女達の円陣…黒い女導師が装飾された觸髅を持って現れ…跪く女の背に觸髅を乗せる…そして黒い羽毛に覆われて折れた牙を持つ異形のものがゴルゴダに近づき灯明と三人の案山子と女達…そして歌う男が交錯する…

LAZARUS(大意)

此処を見上げよ 私は天国に居るんだ
私はいくつもの傷を負った 目には見えない
私はドラマを負った 盗まれ得ない
いまや誰もが私を知っている

此処を見上げよ おまえ 私は危機に瀕している
失うものの何とて持たず
私はとても高ぶって…それによって脳は混乱し
携帯電話 (cellphone) を取り落とさせる

まるで私のようではないか

ニューヨークに辿り着いてからというもの
私は王のように生きていた。
それから私は全ての金を使い果たし
お前を捜してた

この道か さもなければ他は有り得ない
わかるだろう 私は解き放たれる
あの青い鳥のように
さあ、ちょうど私のようではないか

Oh, 私は自由になる
あの青い鳥のように
Oh, 私は解き放たれる
まるで私のようではないか

協力 須東 美紅

「Lazarus」は、オフブロードウェイで上演中の劇作。劇作家エンダ・ウォルシュの手による脚本は、「地球に落ちて来た男」の続編になっている。

「地球に落ちて来た男」の主人公を再び宇宙に帰そうという物語の概要はつまびらかではない。ソニーミュージックのBowie 頁からリンクされたページで、日本語の佳いレビューが読めるのでネットで検索されたい。

Bowie は「チェンジス」などの作品とともに、書き下ろしの新作を提供している。この曲はその「Lazarus」のタイトル曲である。また「Lazarus」はキリストによって、埋葬 4 日後に蘇った男の名でもある。広がりのある深く透明な曲想のこの曲は、21 世紀に出会うあの「地球に落ちて来た男」である。若い相貌のまま年老いて、絶望に彷徨する魂は、現代に生きる我々の姿を映じたものではないのか…。Bowie は彼自身も世界も未だ若かった、あの 1975 年に「絶望に貧した異邦人」に強く感情移入したと語っていた。

…甚だ私見ではあるけれども…、この Blackstar と Lazarus では今日的でありながら我々の世界が常に内包している、ふたつの恐れが表出しているように思える。

ひとつは個人の持つ内省的な「世界」の中での大きな違和感・異邦であり、異端である自己との邂逅。もうひとつは、「自分とは異なるもの」の存在を理解し受け入れることの重要性について…。

誰もが他者にとって「異者」となりうるきわめて現代的な問題の投げかけである。

今や、遠く外宇宙 (うみ) からこの星を訪い、帰る術を失った「地球に落ちて来た男」の姿こそまさにこの現在に生きる我々自身、そう、「まるで私のようではないか。」

付け加えるなら Tin Machine の日本公演で Bowie が着た黒い星の T シャツには人種差別主義に反対する Rock と書かれていた。偶然であれ、Blackstar のロゴを見る度にそのことを思い出すのも、今日的ではある。

